

研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-152	A-110	22-001	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之
題名 (原題/訳)			
The contribution of alcohol-related deaths to the life-expectancy gap between people with and without depression - a cross-country comparison うつ病患者と非患者におけるアルコール関連死の平均余命の差への寄与-国別横断比較			
執筆者			
Moustgaard H, Tarkiainen Lasse, Ostergren O, Korhonen K, Zengarini N, Costa G, Martikainen P.			
掲載誌			
Drug Alcohol Depend. 2022 Sep 1;238:109547. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2022.109547.			
キーワード			PMID
アルコール関連死、各国間比較、うつ病、平均余命			35810620
要 旨			
<p>目的：アルコール関連死は、うつ病患者の平均余命が短い理由の一つと考えられるが、その寄与を定量化した研究はない。アルコール関連死亡割合が異なる欧州4カ国において、うつ病の平均余命の差に対するアルコール関連死亡の寄与割合を定量化した。</p> <p>方法：1993～2007年のデンマーク、フィンランド、スウェーデン、イタリア・トリノの人口登録と医療・死亡記録をリンクしたコホートデータを用いた(210,412,097人年, 3,046,754人の死亡)。デンマーク、フィンランド、スウェーデンの退院記録からうつ病の精神科入院患者を、フィンランドとトリノの処方箋登録から抗うつ薬の処方を受けた外来患者を特定した。アルコール関連死と非アルコール関連死を、基礎死因と寄与死因の両方を用いて、性、年齢、うつ病の状態によって層別化して評価した。うつ病の有無による25歳の平均余命の差を死因分解することで、アルコール関連死の寄与割合を定量化した。</p> <p>結果：うつ病の入院治療の有無による平均余命の差は13.1～18.6年、抗うつ薬治療の有無による差は6.7～9.1年であった。アルコール関連死の平均余命への寄与割合は、デンマーク(33.6%)、フィンランド(18.1-30.5%)、スウェーデン(11.9%)、トリノ(3.2%)であり、アルコール関連死割合の多い国で寄与割合もより大きかった。また、すべての国で男性が女性よりアルコール関連死および寄与の割合が高かった。アルコール関連死以外の原因による平均余命の差は、各国間でほぼ差がなかった。</p> <p>結論：特に男性やアルコール関連死亡の高い国において、アルコールはうつ病患者の平均余命の低さに寄与していた。</p>			